

市場南山 1 号墳—複数の埋葬施設をもつ墳墓—

古墳時代後期（約 1,500 ～ 1,400 年前）の墳墓 1 基を調査しました。

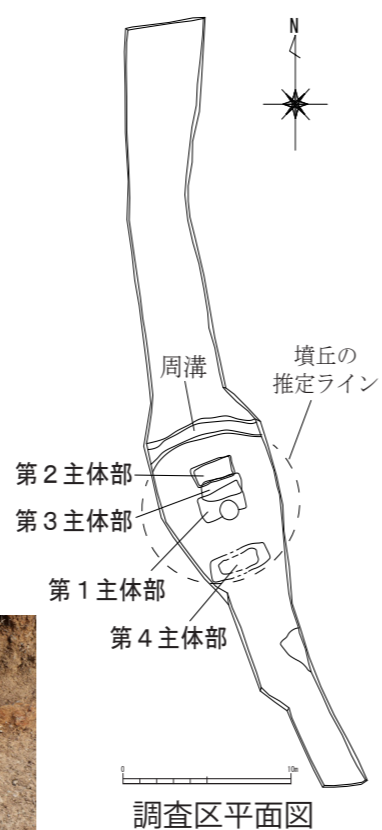
1 号墳は南北長約 8 m、高さ約 0.8 m の円墳で、主尾根との間に幅約 1.2 m、深さ約 0.4 m の周溝がめぐります。墳頂で 3 基（第 1 ～ 3 主体部）、南側の墳丘斜面で 1 基（第 4 主体部）、合計 4 基の埋葬施設がみつかりました。いずれの埋葬施設も並列しており、中には木棺が入られたとみられます。墳頂の埋葬施設はつくられた時期に差があり、第 3 主体部が最も古く、第 1 主体部と第 2 主体部はその後につくられたものです。第 1 ～ 3 主体部は古墳時代後期のものと推定されますが、いずれの主体部からも副葬品は出土していません。

一方、第 4 主体部は棺内から鏢付鉄刀と鉄鏃、棺外から須恵器（高杯 6 点と提瓶 1 点）が出土しました。出土遺物の特徴から、第 4 主体部は 6 世紀末のものとなりました。



1 号墳全景（北から）

写真奥：第 1 主体部 手前：第 2 主体部



第 4 主体部（西から）



出土した鉄刀・鉄鏃（左）と須恵器（右）

鉄刀は全長約 1 m の長大なものです。今後は博物館で X 線写真の撮影や保存処理をおこない、調査を進めます。



出土した遺物や調査中の記録は、今後整理し、報告書にまとめます。その中で新たな事実が分かることもあります。今後の作業の進展にご期待ください。

いけじりひがしやまいせき いちばみなみやま とうふん 池尻東山遺跡・市場南山 1 号墳の発掘調査成果

兵庫県教育委員会
（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
〒 675-0142
兵庫県加古郡播磨町大中 1-1-1（兵庫県立考古博物館内）
URL: <https://www.hyogo-ctc.or.jp>

調査成果解説資料



はじめに

池尻東山遺跡と市場南山 1 号墳の発掘調査は、県道加古川小野線（東播磨道北工区）の建設に伴い、（公財）兵庫県まちづくり技術センターが兵庫県教育委員会からの委託を受け、7 月から 10 月にかけておこないました。

本資料は、今回の調査で得られた成果を地域の方々に広く知って頂きたいと作成しました。地域の歴史を物語る貴重な発見に興味を持っていただければ幸いです。

遺跡の立地と周辺の遺跡

池尻東山遺跡は加古川東岸、小野台地の西端に発達する丘陵の南側斜面に立地します。市場南山 1 号墳は池尻東山遺跡の北方約 1 km、同様の丘陵の主尾根から少し下った南側斜面に立地しており、かつて国道 175 号線建設時に古墳の周溝の一部が調査されました。周辺には焼山古墳群や檜山古墳群をはじめ、数多くの古墳が存在する地域です。



調査地点の位置（国土地理院地図に加筆）



市場南山 1 号墳 遠景（北上空から）



池尻東山遺跡 遠景（南上空から）

池尻東山遺跡の調査成果—山の斜面に営まれた集落—

調査の結果、古墳時代後期後半から飛鳥時代前半頃（約 1,400 年前）の集落跡がみつかりました。斜面を大規模に切り盛りして平坦面を造り、そこに^{たてあな}竪穴建物や^{ほったてぼしら}掘立柱建物がつくられていたことがわかりました。建物を建て替えた様子もうかがえ、当時の人々はこの場所である程度継続して生活を営んでいたようです。遺跡からは、^{すえき}須恵器・^{はじき}土師器と呼ばれる土器や鉄器などが出土しました。いずれも当時の生活に欠かせない道具で、須恵器は食器や貯蔵具として、土師器は主に調理の際に使われ、鉄器はモノの加工に用いられました。また、竪穴建物の床面をはじめとして、いくつかの場所で火を受けた痕跡がみられました。調理時に火を焚くカマドに伴うものもありますが、^{てつかじ}鉄鍛冶などのモノづくりに伴う可能性があるものも存在します。約 1,400 年前の人々の生活を知りうる貴重な成果となりました。



平坦面の様子（南西から）



遺跡の全景（南上空から）



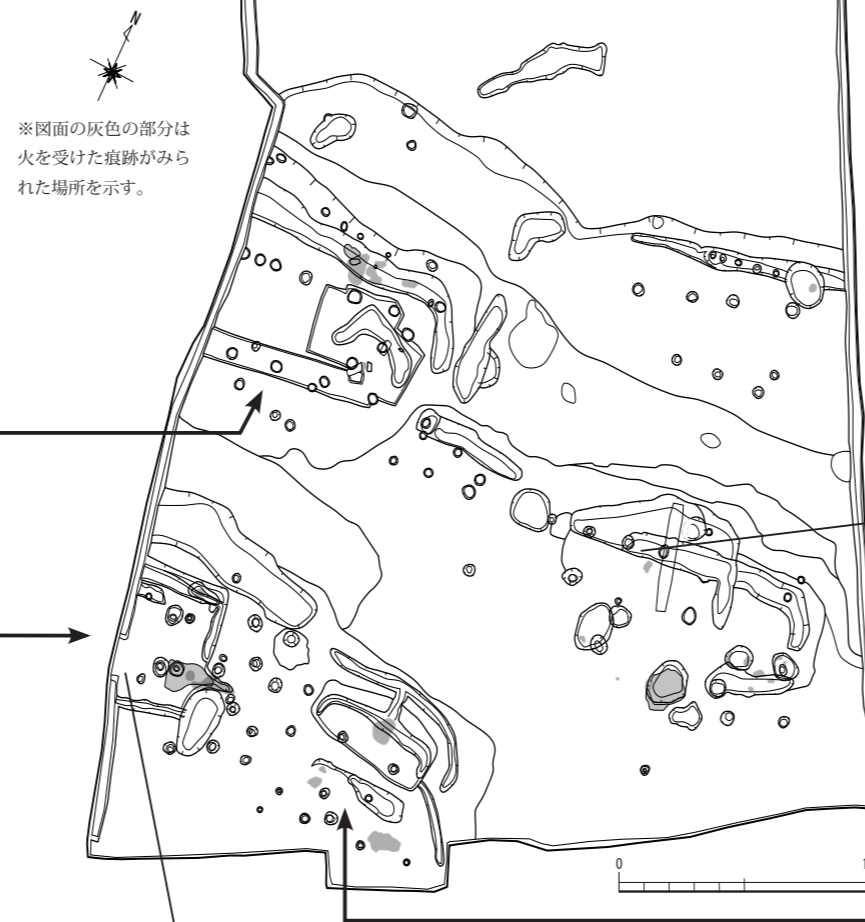
掘立柱建物 2（南から）



火を受けた痕跡

何度も高い温度で熱されることで、**地面が硬くなり、赤く変色**しています。

調査区平面図



土器の出土状況（南西から）

灰色の土器が須恵器、赤もしくは茶色の土器が土師器です。須恵器は高い温度で焼かれるため、表面が硬くて水に強く、土師器は火にかけることができます。古墳時代の人々は使い道に応じて両者を使い分けていました。



竪穴建物 SH108（西から）



須恵器の出土状況（北西から）



調査の様子



竪穴建物 SH106・121（南から）